カンボジア視察感想文

大江電機株式会社
関谷　優太

期間：2022 年 11 月 3 日～2022 年 11 月 7 日
同行者：大江社長、小華さん、小池さん、那須野さん

日程
11 月 3 日：日本出発、バンコク経由、シェリムアップ到着
11 月 4 日：スレイビボケイ高校　贈呈式参加、　奨学生家庭訪問　アライン・ランサイ中学校見学
11 月 5 日：アンコールワット観光、プノンペンへ移動
11 月 6 日：SAJ 孤児院「夢追う子どもたちの家」訪問、カンボジア出発
11 月 7 日：日本到着

私は今まで海外旅行の経験がありませんでした。そのため出発するまでの日々は不安感に包まれておりました。出発の当日も集合時間の 1 時間 20 分前には集合場所に着いているほど緊張しながら日本を出発しました。

機内では初めて機内食を食べ、リンゴのサラダの中に生のエビが入っておりその時点で日本との感覚の違いを感じ始めていました。

飛行機の乗換でバンコクのスワナプン空港に到着しました。この空港がとにかく大きくて歩いてもあるいても先が続いており海外が初めの私として何を見ても感動を覚えました。乗り換え後 1 時間ほどで目的のシェリムアップへ到着し、SSFC の小林さん、ボリナさんとご挨拶を致しました。

そのままシェリムアップのレストランで食事をしました。私の今回の旅において一番の心配事項が食事でした。私はあまり香辛料が得意ではなかったので食べられるものがあるのか非常に心配でした。ただ、結果から申し上げるとカンボジアの料理はとても美味しかったです。中には香りの強いものもありますが大体のものはそこまで香りもきつくなくおいしく食べることができました。

その食事の際に SSFC の小林さんから海外に来た際はその国の言葉を 3 つ覚えると良いとのことで下記の言葉を教えていただきました。

おいしい：チュガニーナ
ありがとう：オークンチュラン
こんにちは：チェムリアップスオー

初めは使うのが小恥ずかしかったのですが日程の最後の方には自然に使うことができるようになりました。

２日目はスレイビボケイ高校の新校舎贈呈式に参加させて頂きました。
　建物はとてもきれいに使われておりゴミ１つ落ちていませんでした。
　子供たちから歌や楽器の演奏、踊りなどを披露していただきました。
　贈呈式は無事に終わり昼食には皆さんの手料理を頂戴しました。レストランの料理とはまた１味違う内容で香りは独特のものがありましたがそこで食べた卵焼きはとても美味しかったです。
　食事が終わり子どもたちは自分たちで音楽をかけながら踊りを踊っていました。日本でいう所の盆踊りのような踊りでした。私もその中に混ぜてもらって踊りを教えてもらいながら一緒に踊ったことはとてもいい経験になりました。言葉は通じませんが一緒に楽しい時間が過ごせたことはとてもうれしかったです。
　その後奨学生の家庭訪問に伺いました。
　特に印象に残ったところは１件目と３件目に伺ったところで１件目の家庭ではコロナ禍でお父さんが自殺してしまい、お母さんが働いて子どもを育てている家庭でした。さらにその家庭には生まれつき足が悪く歩けない子どももいて生活は非常に厳しいものでした。幸いにも奨学生の子は優秀で今後も継続的な支援もできるとのことで安心しました。
　３件目の家庭は優秀な女の子でした。優秀なためこのまま学校で勉強に励み、自分のなりたいものへの努力を続けてほしいと思いましたが話を聞いていると周りの環境、親御さんなどの理解や協力を十分に得られていないなと感じました。生活の貧しさから子どもは貴重な労働力であり、勉強するよりも働いてお金を稼いでほしいという要望がありました。
　貧しい環境において目先のお金を稼いでいかないといけないことは十分に分かる一方で勉強することの大切さを周りの方々にも理解してもらう必要性も感じました。
　家庭訪問をする中で少し悲しかったのは子どもに将来なりたいものがあるかと聞いたときに医者か学校の先生くらいしか職業を知らないためにあまり希望が出てこなかったことです。大学まで行けばそれなりに道が開け情報も入りますが大体の子どもはどのような仕事があるかを知りません。将来何になりたいかということが日本にいれば当たり前に希望することができるのにカンボジアと日本の違いをそこにも感じました。

　家庭訪問の後はアライン・ランサイ中学校を見学しました。こちらの学校も非常にきれいでゴミはしっかりとゴミ箱に捨てられており、しっかりと管理されていました。
　この学校を訪問した意図としては学校の先生への教育支援の打ち合わせです。カンボジアでは言葉を読み書きできれば教職につけるというレベルの先生もいて大江電機がやっているように校舎を建てるハードの支援も必要ですが先生の質を上げるというソフトの部分の支援もまた必要です。スレイビボケイの学校は優秀な先生がいて教育のレベルは高いようです。カンボジアでは学校の卒業試験を国全体で行い A,B,C,D,E でランク付けます。このランクが高いと好きな大学へ行くことができ、授業料は免除されるなどの支援が受けられる重要な試験があります。スレイビボケイでは中学卒業試験ですがその A 判定を取った子どもが７人も出たそうです。

今後スレイビボケイの先生とともにアライン・ランサイ中学校の先生たちと教育研究会を行うということでその打ち合わせを行いました。
今回 SSFC から鍵盤ハーモニカを 5 台アライン・ランサイ中学校へ贈呈しましたがその際に大江社長が童謡の「チューリップ」を数十年ぶりに演奏され、演奏できることに非常に驚きました。

SAJ 孤児院「夢追う子どもたちの家」訪問
最終日には孤児院へ伺いました。孤児院では子どもたちから踊りや楽器の演奏などを披露してもらい、その後一緒に昼食を取りました。子どもたちは卒業までに日本語検定の取得を目指して勉強しており日本語が少し伝わる子がいて楽しく話をすることができました。
道路状況が変わっていて移動時間が予定よりも長くなってしまい孤児院での時間が少ししか取れず子どもたちとふれあう時間が少なったことはこの旅のなかで唯一な残念はことでした。しかし、最後の見送り際に子どもたちが日本語で森山直太朗の「さくら」を歌ってくれました。私は感動してつい泣いてしましたが本当に訪問して良かったと感じました。

このカンボジア訪問前にも SAJ の活動は知っていましたし、寄付を通じて参加したこともありました。しかし、今回訪問してそこに住む子どもたちと会うことでこの子たちのために活動しているのだとより積極的に関わっていきたいという気持ちが強くなりました。
今回カンボジアを訪問したことで行く前までのカンボジアのネガティブなイメージは一新されました。行く前までは貧しく状況で日々の生活もままならない可哀想な人たちという思い込みがありました。でも実際に会った人たちは決してそんなことはなくそれぞれが楽しそうに生活していました。確かに生活の支援などが必要なことは事実ですが上からの立場で支援をするのではなく、支援を通じて一緒に前に進んでいくということが必要なのだと感じました。
今回のカンボジア訪問に参加することができて本当に良かったです。私自身いろいろなことを考えさせられて勉強なることが多かったです。
参加させて頂いた大江社長、また現地でいろいろなお世話をしていただいた SSFC の小林さん、ボリナさんへ感謝をしてカンボジア視察の感想文とさせていただきます。
ありがとうございました。

カンボジア視察　感想

テクノエナジー株式会社
那須野　亮

私は海外へ行くのは 10 年ぶりなので、行く前はとても不安でした。
カンボジアの知識が全く無い私は、前回 2019 年の研修に行った阿南社長に何が必要か聞いてみました。そこで聞いたのは「ポル・ポト」について調べてみるといいよとの事でした。
さっそく調べてみると「ポル・ポト」とは 1975 年~1979 年のカンボジアの首相で、この 4 年間に 100 万～300 万人のカンボジア人が大量虐殺されたそうです。医者や先生などの知識人は全員殺され、子供たちは残されてポルポトが神という刷り込みがされたそうです。たった 47 年前の出来事に衝撃を受けました。現在でもその名残りとして 60 歳以上の方はあまり見受けられませんでした。町はまだまだ復興途中なのかと思っていたら首都プノンペンは本当に大都市です。ここ十年くらいで急成長している反面、貧困の格差はとても激しいものでした。
学校や孤児院での視察の時系列等は関谷さんのレポートにて詳しく書かれていますので、ちょっと違う角度から現在のカンボジアについて紹介し皆様が少しでも行った気分になれればと思います。

乗り物編

まず車ですが、圧倒的にトヨタ車が多く走っています。中でも多いのがプリウス、次にハイラックスでした。車には関税が 120%掛かるらしいので車を持てるのは富裕層のみだと思われます。

次にバイクですが、こちらはホンダのバイクが圧倒的でした。ＰＣＸというバイクをよく見かけました。道端の露店に空き瓶に黄緑色の液体が売っていたのですが、これはガソリンを何かで薄めた液体との事でした。ホンダのバイクならこれを入れても壊れないそうです。ってそんな保障は絶対無いと思いますが。
小さい子供が原付を運転しているのをよく見かけました。カンボジアでは 125 cc以下は免許が要らないそうです。ヘルメットをかぶっている人は全体の半分くらいだったと思います。バイクでの 3 人乗りもよく見かけました。この辺はあまり規制が無いのかもしれません。
首都プノンペンではトラック用の中古のエンジン単体やデフ単体が売っていました。日本で廃車のトラックから外している物がこちらに流れてきていると思われます。カンボジアは信号がかなり少ないです。大多数の交差点はサークル状の「ラウンドアバウト」になっており、真ん中には巨大なオブジェクトが置かれている所も結構ありました。

動物編

カンボジアでは猫も多少いましたが圧倒的に犬が多かったです。道端に犬や牛、アヒルがその辺を歩いているのをよく見かけました。家の前で寝ている犬もくさりや首輪は無かったです。カンボジアでは犬を食べる風習があるそうなのでペットというよりは生きた保存食なのかもしれません。犬の次によく見かけた牛ですが、どの牛も馬のように痩せていて雑草はいくらでもあるのに栄養は全然足りないのだなと感じました。

住宅編

シェムリアップ州のビボケイ中学校近辺の住宅はヤシの葉で作った屋根が多くありました。
シェムリアップ州から首都プノンペンへ行くにつれて、
ヤシの葉の屋根⇒トタン屋根⇒瓦屋根⇒瓦屋根+ガラス窓というふうにグレードアップしていきました。貧困層の家では電気が来ておらず 50 センチ角程度のソーラーパネルにてバッテリーを充電し、夜の照明に使っているそうです。
なので冷蔵庫が無い家も多いようです。
カンボジアの住宅は高床式住居を多く見かけました。下のスペースに作業場があり、ハンモックで寝ている人もたくさんいました。

食べ物編

露店で生肉がそのまま売っているのには驚きました。虫がつかないようにうちわで仰いでいましたがそれ以外も色々心配です。

カンボジアではドラゴンフルーツをよく目にしました。機内食にも出てきましたし朝のバイキングにも出てきました。孤児院の昼食で「ヒカマ」というデザートが出てきました。食感は梨のような食感で、味はほんのり甘い。そこに唐辛子と砂糖を混ぜたソースを付けて食べるそうです。食べてみましたが日本人には馴染みのない味でしたがハマればやみつきになるかもしれません。

学校・孤児院編

学校では家の事情で途中で辞めざるおえない子供は多いそうです。ウェス・サボーン小学校では学校の敷地内に駄菓子屋がありました。これはお金を支払う練習で休み時間に買うのだそうです。成績が優秀な高校生は国からバイクがもらえるそうです。成績の順位が凄く重視されているようです。ビボケイ中学校では近くに遺跡がある為、国の法律で電柱が立てられないそうです。この為今まで電気が来ていなかったのですが、生徒達自ら電線管を埋設する為の穴を何百メートルも掘り、式典前日に電気が開通したそうです。

今回３泊５日でしたが非常に中身の濃い経験をさせて頂く事が出来ました。大江社長及びビボケイ学校の皆さん、ＳＳＦＣの皆さんには本当に感謝致します。今回一眼レフで 840 枚撮影していました。その中で一番印象に残ったのは大江社長が孤児院で里子さんとご対面した時の二人の笑顔が一番ぐっときました。
長文を書かせて頂きましたがこの経験は行かないと分からないと思います。
次にチャンスがあれば是非皆さん、カンボジアへ行ってみて現地の空気を肌で感じてみて下さい。

カンボジア視察感想文

大江電機株式会社
小池　毅至

東南アジア圏はそれなりに訪問したことがあるのですが、カンボジアは訪問したことが無かったので、今回が初のカンボジア訪問となりました。フィリピン駐在歴が長かったので、フィリピンで体験した事が基軸に様々なものごとを捉えていました。特に気付いたことは、治安が格段に良い、喫煙者が少ない、思ったより道にアスファルトが敷かれている、街中にポイ捨てごみが少ない、貧困国とは思えないぐらい質屋が少ない、バイクが主流で乗り合いバスの様な車をほとんど見なかった、自国通貨とドルがほぼ並行的に当たり前に浸透している、自国通貨が比較的奇麗な状態のものが多い、家に台所あるのかと思うほど屋台で食べている人が少ないなど、訪問前はフィリピンよりも遅れている発展途上国と思っていましたが、全てがそうではないと知りました。急激すぎる経済成長で一気に伸びたことと、成長せずにきたことが混濁している感じがしました。

そんなカンボジアでの支援について、自分の目で見て感じることが出来たので、理解をし始めることが出来た気がしています。校舎寄贈では子供たちだけでなく地域からも感謝されているのを感じましたし、先生や生徒たちが心から感謝しているのが伝わってきました。生徒の中には少しですが英語が話せる子がいて、緊張した素振りを見せていましたが勇気を出して話しかけてくれました。そんな子に優しく対応している姿を見た、他の英語が話せる生徒も次々に話しかけてくれたことに嬉しくなりました。純粋無垢な子供たちの笑顔をとても印象的でした。また孤児院訪問では、自分で勝手に孤児院のイメージをしていたのとは大きく違い、純粋無垢な笑顔は孤児院でもありました。特に孤児院の子は、心の奥底に何かを抱えているのか人に触れることをよくしてきた印象がありました。腕を掴んでくる子や抱きしめてくる子など、その様な子供たちの姿を見せられて心が洗われた気がしています。支援すること＝お金を出すことだけでなく、その子たちの成長を見守りながら支援をしていく必要性があるのだと感じました。カンボジアでは思っていたよりも学歴社会が確立しており、学ぶことが出来るか出来ないかで人生を豊かに出来るか出来ないかのスタートラインが違うことを感じました。そんな中でも支援を続けていく中で大学進学を考える子供たちが増えて農村部から都市部へと生活の変化が変わる時に子供たちは戸惑う可能性もあると思います。今後も急速な経済成長をし、都市部と農村部の格差が広がっていくであろうカンボジアで今後想定される支援のあり方も考えていく必要があると思います。

カンボジアを訪問する機会を頂きまして、ありがとうございました。

カンボジア視察感想文

大江電機株式会社
大江　光正

公益財団法人スクールエイドジャパン（ＳＡＪ）窓口での校舎寄付（累計９校舎）
　２０１３年４月　スレイビボケイ小学校（３教室）・スレイビボケイ中学校（５教室）
　２０１６年７月　ポピールカイ小学校（５教室）
　２０１７年３月　スワイローミット幼稚園（２教室）・スワイローミット小学校（４教室）
　２０１８年２月　ウローハーバイ中学校（５教室）
　２０１９年１１月　トップスラウ小学校（３教室）
　２０２１年１２月　プロッポスロルイ幼稚園（２教室）
　２０２２年４月　プレイベン州　ソー中学校（４教室）

公益財団法人スミタ・スクーラーシップ・ファンデーション（ＳＳＦＣ）窓口校舎寄付
　２０１９年１１月　スレイビボケイ中学校増築新校舎（５教室）タイル工事・トイレ建設
　２０２２年１１月　スレイビボケイ高校（５教室）校庭前面タイル敷設工事
　　８０８４０ドル

２０１３年４月にスレイビボケイ小学校・中学校を同時建設し、今回の高校校舎が１１校舎目の寄贈となりました。１３年に初めて校舎贈呈式に出席し、教育支援活動は校舎建設をするだけで良いのだろうかとの想いがあって、その後は住田さん（元ＳＡＪ事務局長・ＳＳＦＣ創設者）と共に数回スレイビボケイを訪問していました。カンボジアの貧困地域ながら大半の子供達が学校に通ってきます。先生方も恵まれない環境ながら熱心に子供達に寄り添っていました。子供の数が増えてボロボロの木造校舎での授業が続き、校舎が足りないので建設して欲しいと要望されました。しかしＳＡＪではその要求に対応できず、州が他の支援者の協力で小学校新校舎を建設しました。

２０１７年３月に住田さんがＳＳＦＣを設立し、現地教育者の授業指導を開始されスレイビボケイ中学校も指導対象校となりました。１８年にスレイビボケイ中学校で開催された指導発表会に参加し、少しでもスキルアップしようと努力している先生方、貧しくても学校で勉強したいとの気持ちが伝わってくる子供達に触れ、中学校新校舎建設を住田さんにお願いしました。

２０１９年１１月大歓迎を受けての贈呈式、州の有力代議士も参加しカンボジアでのニュースでも放映されました。その時の挨拶で、子供達の教育は地域全体が協力することが重要なので、皆でカンボジア一ごみのない村を実現すれば必ず高校校舎を建設し、地元に小学校から高校までの教育環境を整備すると約束しました。（中学校の一教室を使って通学に２時間かかる高校の分校が認可された）

残念ながら２０２０年に住田さんが逝去されましたが、住田さんの意志を継承され小林ふじこさんが代表としてＳＳＦＣを引き継いでくださいました。高校の分校ができたことで中学卒業生５０数名の大部分が高校進学しており、高校校舎を建設するのでスレイビボケイ高校として独立認可するよう州教育庁に要請しました。結果として田舎の高校では珍しく国所轄（州所轄が普通）の高等学校として正式認可され、学校贈呈式の場で認定式も執り行われました。

本年１２月に中学校を卒業する子供が５５名、全国統一卒業試験合格者５１名、内全国Ａランク合格者７名の成績ですから相当高いレベルです。来年１月からは各学年５０名強の３学年で新学期がスタートします。ＳＳＦＣでは家庭が貧しく成績優秀な子供４０名を奨学生として毎月１０ドルのお金とお米１０ｋｇを支援しています。スレイビボケイ地区のハード提供は一段落ですから、ソフト面での協力が中心になってきます。高校卒業後の進路をどう確保するかを含め引き続きの支援を続けていきます。

カンボジアの教育支援は当社の社会貢献活動の一環として継続しています。学校建設に現在まで約６０万ドルを拠出しています。このお金は社員の皆さんの働きによって生み出されています。カンボジアの子供達に代わり「オークンチュラン」

皆さんの働きで建設された校舎には以下が表記されています
「Ｂｅｇｉｎｉｎｇ　Ｔｏ　Ｄｒｅａｍ　Ｓｃｈｏｏｌ」「大江電機社員一同様」

カンボジアの里子は３人になりました。

長男　サルーアンは１２月に医学大学６年を卒業し、来年から２年間は専門学部で学び医者の道に進みます。８歳に出会って１６年、２０２５年春には夢が実現できます

次男　サッカナーは６年生　孤児院の図書室で本を読むのが大好きです
将来は作家になるそうです。仕上げた小説は最初に私に読ませると言っています

長女　シーナビーも６年生　昨年孤児院に入園しました。勉強熱心で日本語資格取得を目指して猛勉強中。感激の踊りのメンバーにもなっています。
将来は日本で働くか兵士になりたいと言っていますが。
この子達の成長を見守りながら、カンボジアの支援を続けていきます。

まだ、カンボジア視察の経験の無い方は、次回以降の機会にぜひ参加してください。
フェイスブック　ＳＳＦＣこばやしふじこ　検索してみてください